

2001年9月 日経ビジネスe+B



上田祐司 (26)

1974年生まれ。'97年、同志社大学経済学部を卒業し、ベンチャーリンク入社。飲食店などのフランチャイズ支援や独立支援を経験した後、'98年10月、同社を退社、独立準備に入る。'99年3月、有限会社ガイアックスを設立、コミュニティ事業を開始する。同年5月、ガイアックスを株式会社化。'00年には、シンガポールやアメリカにも進出する。

サイフの中身インタビュー 食事は栄養補給できればいい。 株式公開のため余計なカネは使わない

「経営者という立場に固執して、会社を立ち上げたわけではないんです。やりがいがあり、無意味な制約がなければ、サラリーマンでも構わない。だが、それは日本の会社では難しい。学生時代にそう思ったんです」と熱く語る上田祐司社長は、同志社大学卒業後、ベンチャー企

業に入社。そこでの経験を活かして、'99年3月に、コミュニティ・サービスなどを手掛けるガイアックスを立ち上げた。上田社長が起業した当時は、特にIT系ベンチャーに追い風が吹いていた。しかし今は状況が違う。今でも、ITベンチャーを取り巻く状況は他の産業に比べれば、

はるかにいい。確かに当時よりもマスコミなどでの露出は小さくなったが、日本のベンチャーはその程度の力しかないだけの話。競争意識や資質のある経営者が少なく、教育システムもありませんから。また上田社長によれば、ベンチャーに対する既存の企業の姿勢にも問題があるのだという。

「ベンチャーの商品というだけで取り扱ってくれないことがある。スピードが命のベンチャーにとって、そういった偏見は命取りになりかねない。アイデアを具現化し、キャッシュ、人材、提携企業を一気に集めないと、企業としては成功できない。ベンチャー経営にはそれほどのエネルギーが必要なんです。わが社のように株式公開を視野に入れている場合は、なおさらです。現在、私もすべてを仕事に捧げる生活です。それから」

そんな上田社長は、午前8時に起床し、10時には出社。その後は、ベンチャーキャピタリストや金融機関、クライアントとの打ち合わせなど、息つく暇もない。帰宅して、ベッドに入るのは、午前5時を回ることも少なくないという生活ぶりだ。

「食事は栄養を補給できればいい。ゼリー状のサプリメントが食事代わりという日もありますよ(笑)」。食事代も含めて、サイフから出ていくお金は日に数千円。ブランドやファッションなどにも特に興味はないという上田社長。年収は秘密だが、サイフの中身は、現金2万7000円にクレジットカード

ド、キャッシングカードともに2枚ずつ。サイフ自体にも年季が感じられる。

「持ち株比率を高めるためにも、余計なお金を使っている場合ではない。車も持っていないし、移動も徒歩か公共交通機関。出資者、社員、顧客の3者を満足させることだけが、今の私の使命なのです」。会社のカネは自分のカネで、欲望は会社の成長。従来言われる言葉の意味とは違って、公私の区別もなく公一色の社長なのだ。



特にブランド物ではない。それにしても年季が……。

会社プロフィール
社名：株式会社ガイアックス
設立：1999年3月
資本金：4億7400万円
従業員数：70名
事業内容
●コミュニティ・サービスの企画・開発・運営
●コミュニティ関連システムの受託開発
●データベース関連システム開発
<http://info.gaiax.com/>

ベンチャー社長の
サイフ
の中身は……